

第7回仙台城跡調査・整備委員会（要旨）

- I. 開催日時 令和3年11月25日（木）10時00分～12時00分
- II. 開催場所 市役所上杉分庁舎10階教育局第2会議室
- III. 出席者
- （委員） 藤澤 敦・北野 博司・籠橋 俊光・佐浦 みどり
深澤 百合子・佐々木 貴弘・永井 康雄・奥村 聡子
渋谷セツコ（欠席）
- （宮城県） 佐藤 憲幸（教育庁文化財課 技術補佐）
- （事務局）
- 【教育局】
- | | |
|----------|--------|
| 生涯学習部長 | 筒井 幸子 |
| 文化財課長 | 都丸 晃彦 |
| 文化財課調整担当 | 長島 栄一 |
| 仙台城史跡調査室 | |
| 室長 | 鈴木 隆 |
| 主任 | 大江 美智代 |
| 主任 | 沼倉 幸司 |
| 主事 | 須貝 慎吾 |
| 主事 | 佐藤 恒介 |
| 主事 | 吉田 大 |
- 【建設局公園課】
- | | |
|----------|--------|
| 公園整備担当課長 | 鈴木 江美子 |
|----------|--------|
- 【文化観光局観光課】
- | | |
|------------|-------|
| 観光課賑わい創出係長 | 横山 弘達 |
|------------|-------|
- （報道機関） （2社）
- IV. 傍聴人 なし

※会議録の署名について委員長は奥村委員を指名

1 開会

2 議事

(1)令和3年度の調査成果について

【資料1-1、1-2、1-3、1-4】に基づき事務局より説明

(北野副委員長) 登城路1区から見つかったコンクリート製構造物の用途は何か。また今回の東丸(三の丸)土塁上の調査結果では、前回見つかった土塀の痕跡に類似する遺構は確認されなかったとしているが、遺構が破壊されたことで検出されなかったのか、あるいは存在そのものが疑問視されるのか。

(事務局) コンクリート製構造物は内部が空洞になっており排水に関わるものと考えられるが詳細は不明である。流水音等は聞こえず、現在は機能していないものと考えている。排水施設であれば清水門から伸びる近代の排水施設と一連のものと考えられるので、今後近隣で類似したものが検出されていないか調査する。

東丸(三の丸)土塁については、昨年度調査成果に類似した遺構は検出できなかったが、塀瓦の破片が少量出土しているので、塀が存在しなかったとは言えない状況である。出土遺物を精査し検討する。

(北野副委員長) 戦後に掘られた亜炭鉱の坑道から2本の排水施設が伸びており、それが機能しなくなっている可能性があるとの話を聞いている。もし坑道から延びる排水施設でないとすれば、既存の排水施設として機能していない事に問題がある。現在でも清水門周辺は水が湧き出るところなので、登城路整備の中で既存の排水施設を把握し、どのように排水されているのかを再度確認してほしい。

(藤澤委員長) 扇坂下の調査では、近現代の盛土層が厚かったようだが、現地表面からどの程度掘り下げたのか。また推定だと1区・2区は千貫沢にかかっているはずだが、沢の底面まで検出できたのか。

(事務局) 扇坂下調査の1区は地表から最深で約1.8m掘り下げた。焦土下からは、やや締りのある近代の遺物を含まない層を10cm程確認しており、この層の上面が底面に近いと考えている。しかし今回の調査では安全管理上1.8m以上の掘削は行っていない。

(藤澤委員長) 1区の北側は千貫沢に掛かる可能性があるという解釈か。

(事務局) そのように考えている。

(藤澤委員長) 千貫沢を横断する道路下の暗渠には千貫沢の水が流れている。そこより北側の岸に古い石垣が残っており、この暗渠はおそらく江戸時代より維持されていると考えられるので、暗渠の底面までの深さも確認すると良い。今回の調査区の範囲では、2m以上の掘削が困難であるためやむを得ないが、更に深いところに千貫沢の底面が残っている可能性を探る材料として暗渠の深さも今後調査するべきである。

(北野副委員長) 登城路2区の石垣の年代観についての見解を確認したい。

(事務局) 石垣構築時の根切(根石を据え置くための掘り込み)を近世の整地層(VI層)上面で

確認し、また根石の直下からは自然堆積層（Ⅸ層）を確認している。石垣の構築年代は、Ⅵ層から出土した陶磁器の年代から 18 世紀から 19 世紀中頃と考えられる。

（北野委員長） 元禄 7 年の老中奉書に記載のある、東丸巽之門右脇石垣の築き直し等について、絵図との整合性や巽門跡との相互関係についても確認したい。

（事務局） 今回確認した石垣は 18 世紀～19 世紀中頃の江戸時代後期に構築されたものという見解を示したが、その下層からは更に古い時代の近世の整地層（Ⅶ層）を確認しており、そこからは石垣の痕跡と考えられる遺構を検出している。遺物が出土しておらず、詳細な年代は不明だが、この遺構が石垣の痕跡であった場合、今回確認した石垣（18～19 世紀中頃）より古い段階のものであり、築城期ないし元禄 7 年の絵図に描かれた石垣の痕跡の可能性はある。

巽門は昭和 50 年代の発掘調査以来、検証や追加調査を行っていない。今後、巽門登城路を整備するにあたり過年度の調査成果や絵図等を比較しながら再調査等も検討したい。

（北野副委員長） 正保 2 年の奥州仙台城絵図には石垣の表現がなく、この時期の石垣の有無は不明だが、将来的に石垣を整備するのであれば課題が多いため再度調査する必要がある。

（藤澤委員長） 現在は大手門登城路と巽門登城路と呼ばれる 2 つの登城路があり、虎口の形状から巽門登城路の方が古く、築城時の登城路と考える意見が一般的だった。しかし、今回確認された石垣の年代が築城期に遡らないことから、築城期の石垣が位置をずらして新しく築かれた等の可能性もあり、巽門周辺の石垣がどのように整備されたのか再検討する必要性が出てきた。仙台城の成り立ちに関わる重要な成果であるため、今後の整備に向けて課題を明確にしていく必要がある。

(2)仙台城跡の整備について

【資料 2】に基づいて事務局より説明

（藤澤委員長） 「竣功録」は以前から存在が知られていた資料か。

（事務局） 仙台商工会議所主催で仙台城の復元に向けた資料作成を行った際に調査され、報告書にも掲載されている。しかしその際は資料全体の写真撮影がされていなかったため、所蔵元で再調査を行った。

（藤澤委員長） 非常に重要な資料なのでぜひ活用してほしい。

（佐浦委員） 「三尺左吾平」の映像資料は非常にわかりやすい。例えば、発掘調査の様子や調査で重要なものが発見されたとき等は写真だけではなく動画を撮影することで、後に活用できる資料となると考える。当社では、伝統工芸品を制作しているが、職人の高齢化に伴い技術伝承が困難になってきていることが課題である。そのような課題に対し、伝統工芸の技術を動画撮影し工程毎にコメントを入れて編集したものを動画共有サイトにアップロードして後継者に伝承する取組を進めている。発掘調査や史料調査等についても報告書で残すことも必要だが、わかりやすく伝える資料として動画や写真を活用できたらよい。

- (事務局) 今後は「三尺左吾平」のような映像資料を十分に調査した上で保存し、活用していければと考えている。
- (藤澤委員長) 発掘調査では報告書に掲載する写真を撮影することに拘るあまりに、動画まで手が回らないことが多い。近年では動画撮影が簡単にできるようになったので、動画を残すということも積極的に検討し映像資料として役立ててほしい。
- (北野副委員長) 大手門復元関連基礎調査(地形測量)について、測量範囲が狭い印象を受けたが、範囲を広げて撮影できないか。
- また、レーザー計測をしたのであれば、植物園周辺の植生が繁茂して地形が不明瞭な箇所を詳細に計測し、赤色立体図等の起伏が明瞭に認識できる図面を作ってほしい。調査方法や図化範囲と図の表現等について教えてほしい。
- (事務局) 航空機からの撮影は広域で行っているが、図化する範囲は資料で示した範囲としている。予算の関係もあり図化は大手門復元関連基礎調査としてテーマを絞り、今後の大手門周辺の発掘調査地点を検討するための範囲に留めている。しかし将来的には今回の範囲だけではなく、仙台城跡全体の地形図を作成する必要がある。
- (北野副委員長) 図化しないものの航空レーザー計測自体は、仙台城全体をカバーする範囲で行ったという理解でよいか。
- (事務局) 仙台城跡全体は入っていない。
- (北野副委員長) 計測範囲のデータを活用し地形図とは別に、陰影起伏図の作成を行えば、今後の研究や保存管理にも役立つと思う。
- (深澤委員) 植生調査は当時の植生を復元するために行うのか。具体的な目的を教えてほしい。
- (事務局) 今回の植生調査は、来年度に策定予定の伐採、剪定、植栽等の全体計画をまとめた『植生修景計画』の基礎データ収集が目的である。今回の植生調査は、本丸東側の崖面、東丸(三の丸)土塁周辺を重点的に行い、樹木に覆われた市街地側からの仙台城跡の地形や石垣を伐採・剪定等によって顕在化することを目指している。
- (深澤委員) 当時の植生を復元できる前提で調査するのか。
- (事務局) 当時の植生を復元するわけではなく、伐採や剪定によって仙台城跡の地形や土塁、石垣等を本来見えていた姿に戻したいという主旨である。
- (藤澤委員長) 植生調査後の修景整備については、『史跡仙台城跡整備基本計画』の修景に関する計画に基づいて実施するという理解でよいと思う。基本的な方針は本来の城の姿をわかりやすくするということである。来年度、植生修景計画を策定・施行するためには非常に切迫したスケジュールであるが、できるだけ準備して進めてほしい。
- (北野副委員長) 史跡整備の一環として、城跡の地形が認識できる修景を行うのは重要なことであるが、この整備については都市景観の中で仙台城跡の植生を今後どのような形で良好に保つかという観点も含まれる。また、更に重要で欠かせない視点なのは崩壊しやすい斜面を保全する良好な植生をどのように維持管理していくかということである。史跡整備として、史跡の保存や活用も重要だが、都市景観のなかの史跡のあり方という観点も重要である。
- (藤澤委員長) 仙台城跡整備基本計画の中ではどのように史跡全体を保存していくかという内容も

示しているで、総合的な観点でよりよい植生修景計画策定と実施をお願いしたい。

(3) 仙台城跡の活用について

【資料 3】に基づいて事務局より説明

- (藤澤委員長) 仙台城跡ガイドツアー&石垣クリーン大作戦の参加者数が 30 名というのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために人数を絞ったということか。
- (事務局) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために人数を絞って実施した。
- (藤澤委員長) 以前に石垣クリーン大作戦を実施した際に参加者を募ることに苦労した記憶がある。今回は人数を絞るほどの応募があったということは非常に良いことだと考える。このようなイベントが定着するということは非常に良いことである。
- (奥村委員) 仙台城跡ガイドツアー&石垣クリーン大作戦について、市民に積極的に関わり、仙台城跡について理解を得るということは非常に大事である。特にガイドツアーについては、わかりやすく伝えることが重要である。今回ガイドを行った中で、動画の活用や文化や祭りなどの関連事項を含めてストーリー付けして伝えることなど、参加者にわかりやすく伝えるための課題などがあれば伺いたい。
- (事務局) 動画の活用やストーリー付けをして伝えることができれば、城の成り立ちなどについて更にわかりやすくなったと考える。今回は児童の参加が多く、次世代のに伝えるためのわかりやすいガイドを今後検討する必要があると感じた。
- (奥村委員) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴って参加人数も限られるため、動画共有サイトにイベントの様子等をアップロードすることで、更に多くの人に知ってもらえると考え。近年SDGsへの意識が高まっているため、史跡保全や人の役に立ちたいという気持ちを持った旅行者が増えている。その気持ちに合わせた活用を行うことも必要である。
- (藤澤委員長) 様々な経験をフィードバックして実施していくこと重要である。様々なアドバイスを吸収して今後活かしてほしい。このような石垣清掃イベントを市民だけではなく旅行者や市外の人等が参加できるように範囲を広げても良いと感じる。

(4) 福島県沖地震による被災石垣他の復旧について

【資料 4】に基づいて事務局より説明

※質疑なし

(5)その他

- ・事務局より今後の予定について説明
- ・宮城県文化財課 佐藤技術補佐から感想

(佐藤技術補佐) 委員の先生方から、貴重なご意見いただいたと思う。扇坂下の調査で、仙台商業高校のプール建設などにより、かなり深いところまで壊されていると考えていたが、1.8m下で沢地の堆積土が残っていることに驚いた。

映像についての話題がいくつかあったが、自身も調査を担当している中で、従来の工程で手一杯になってしまい、動画撮影などの新たな手法を取り入れられていない。新型コロナウイルス感染症が拡大する現状の中で、映像を残して、活用につなげることも非常に重要であると感じる。本指摘をもらった課題を1つずつクリアしながら、仙台城の整備につなげてほしい。

3. 閉会